

ユニセフ兵庫ニュース  
**Wish**

世界の子どものために

vol. **73**  
2024年5月号



ユニセフのつどい会場でネパールダンスを披露したセワスクールの皆さん。

CONTENTS

特集 EVENT REPORT  
2-5 第22回 ユニセフのつどい

- 6 活動ファイル 2024年1月～4月
- 7 Global Report ガザ人道危機支援状況
- 8 お知らせ

第22回

# ユニセフのつどい

Unicef Festival

世界のともだちと  
心をつなごう

ユニセフのつどいは  
兵庫県ユニセフ協会のお祭りです。  
多くの人が集い、世界を学び、旧交を温め  
新たな出会いに会話を弾ませました。  
会場には小さな子どもたちの無邪気な声  
若者たちの真剣な表情と笑顔。  
子どもたちの未来に想いを寄せ  
世代を超えて  
人々のこころは一つになりました。  
つどいの様子をお届けします。

## 賀川賞授与式



チームやんだくないと、当協会前事務局長 福井康代様は2023年度賀川賞を受賞されました。2月17日賀川記念館で授与式が行われましたが、ユニセフのつどいの中でも賀川記念館館長 馬場一郎様よりお言葉をいただきました。

## 募金贈呈式



兵庫県立伊川谷高等学校の皆さんからトルコ地震への募金をいただきました。神戸市立盲学校の皆さんはユニセフ支援ギフトを途上国の子どもたちに贈られました。当協会会長 黒木稔が感謝とともに受け取りました。

2023年度に兵庫県ユニセフ協会を通じて寄せられた募金総額は8318万3172円に上りました。外国コインでもご協力いただきました。ありがとうございました。

## プログラム

- ワールドマーケット
- 賀川賞授与式 / 募金贈呈式
- 講演  
「For Every Child 世界の子どもたちの現在」  
講師 ロビンソン 麻己さん  
(UNICEF 東京事務所副代表)
- わくわくワールドカフェ
- みんなで踊ろう!ネパールダンス

## Data イベントデータ

日時	2024年3月2日(土)
会場	コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)
参加者	180人
後援	兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、(公財)兵庫県国際交流協会、JICA関西、(一社)兵庫県子ども会連合会、コープこうべ
協賛	神戸YMCA、神戸YWCA



## LECTURE 講演



©UNICEF Bangladesh/2018

ロビンソン 麻己<sup>まき</sup>さん

UNICEF 東京事務所副代表。国内の大学を卒業後、経済産業省の外郭団体に勤務。英国でジェンダーと開発の修士号を取得。2008年よりUNICEF エチオピア事務所にてインターン、コンサルタント、JPO (Junior Professional Officer) として子どもの保護に携わった後、同事務所にて正規職員として保健に携わる。バングラデシュ事務所、ルワンダ事務所を経て、2023年から現職。

## For Every Child

## 世界の子どもたちの現在

ロビンソンさんは海外の現場で15年間ユニセフの活動に携わってきました。今回は、困難に直面している世界の子どもたちの現状や日本の役割などについて、これまでの経験をふまえたお話をいただきました。

ロビンソンさんは、日本の昔ながらの考え方が残る島根県の小さな町で育ちました。そこで感じたジェンダーや貧困などのギャップと、英語が好きということが今につながっています。現在はUNICEF 東京事務所、主に外務省に対しての\*アドボカシー活動やJICAとの連携に関する活動をしています。

## ユニセフの活動とパートナーシップ

ユニセフはすべての子どもの権利の実現を目指しています。活動の特徴は緊急人道支援と開発援

助とをバランスよく行っていることです。ユニセフの2024年度人道支援計画では1億4700万人の地域における1億4700万人を対象としています。

人道支援活動を横断的・効果的に実施していくためには、他の組織との重複がないよう専門分野の調整が行われています。ユニセフは栄養・水と衛生の分野においてリード機関として、教育・子どもの保護の分野で共同リーダーとして他の国連機関や団体と共に活動しています。

## 世界の子どもたちの現在

子どもたちにとって世界で最も危険な場所といわれるガザには、10分に1人の割合で生まれてくる子どもがいます。100万人の子どものために支援が必要で、長引く下痢による脱水症や急性栄養不良・重度消耗症の子どもの回数が分量を制限し、水も1日1人1ℓしか使えません。学校の90%は機能していない状況です。

スーダンでは、2023年4月に起きた国軍と準軍事組織RSFとの衝突により、400万人の子どもたちが避難を強いられ、70万人以上の子どもが深刻な栄養不良に陥っています。殺害・性暴力・子ども兵としての徴用は前年比500%増加。国際人道

法が機能しておらず、終わりのめどがつかない中、忘れられかけた人道危機となっています。

バングラデシュには、コックスバザール県に33のロヒンギャ難民キャンプがあります。2017年の暴動後ミャンマー北部のラカイン州から隣のバングラデシュに避難したロヒンギャは約100万人、うち半数が子どもです。当時、子どもたちはキャンプ内の汚れた川で遊び、差別や迫害による心の傷の残る絵を描きました。この世界最大級の難民キャンプで、ユニセフは他の機関と共に学習センターや子どもにやさしい空間の運営などを行っています。ロビンソンさんも赴任中には子どもたちの心のセラピーに携わりました。バングラデシュ政府は、過密状態の難民キャンプで数々の問題が生じるため、安全とは言えないバシヤンチャー島へ一部難民を移住させており、今では約3万人がこの島で暮らしています。

## 気候変動が子どもたちに及ぼす影響

今や地球は温暖化どころか沸騰化していると言われています。感染症や大気汚染状況の悪化は国境を越えて拡大し、暑さと早産の相関関係も懸念されています。昨年のCOP28の声明には初めて「子ども」という言葉が反

映されました。子どもが主体となってこれからの世界を考えていくために、ユニセフも環境教育などに力を入れていきます。

## 日本の役割

日本はグローバルヘルスにおけるリーダー的な役割を世界から期待されています。コロナ禍でのラスト・ワン・マイル支援では、ユニセフはJICAや、WHOの認証を受けた製品を扱う日本企業等と協力して、ワクチンを低温で接種地まで届けるコールドチェーン体制の整備や医療関係者の研修などを行いました。現在はワクチン接種記録や母子手帳などの保健情報管理のデジタル化に取り組んでいます。

「海外の子どもの状況などまずは知ることから始まります。地球環境のことも小さい行動を多くの方がすることで変わっていきま。海外生活から戻ってくると『便利』という言葉が日本社会を象徴していると感じます。生まれる場所は選べませんが、日本人だからこそできる支援があるはず」と、ロビンソンさんは講演を締めくくりました。

\*アドボカシー活動 政策提言をして政府に働きかけること。

最新状況や詳細なデータなどは外務省(JICA・日本ユニセフ協会などのウェブサイトをご参照ください。

## 4 アジア女性自立プロジェクト (AWEP)



アジアの女性たちが暴力や搾取を受けることなく、自らの人生に尊厳を持ち主体的に生きることのできるように、フェアトレードを中心とした活動で支援。日本に住む外国人女性への生活相談や情報提供、つどい語り合う場も設けています。アジアの女性たちの作品を販売。

## 5 (一社) 神戸 YJB



「神戸ヤングじじばばの会」。年間 30 回程度児童館を中心にバルーン、クラフトなど遊びの体験活動で子どもたちと交流。イベントにも 10 回程度参加し、毎年 1 回テーマを決めてフォーラムも開催。会場で作られる動物などのバルーンアートに子どもたちは大喜び。

## 6 (株) バオバブ



就労継続支援 A 型事業所。ここで働くさまざまな障がいをもった人たちの将来がアフリカの大地に根付くバオバブの木のようにどっしりと明るい未来になるように、という思いから名付けました。アフリカ布のバッグや小物、カレースライスキットなどを販売。

## 7 NPO 法人 ミャンマー KOBE



2014 年ミャンマー関西結成。2021 年 NPO 法人ミャンマー KOBE 設立。ミャンマーの僧院系運営の学校や孤児院を支援。日本では写真展、各種セミナーなどを開催し、日本に住むミャンマーの人たちや留学生への支援とともに国際交流を推進。今回はミャンマーの小物も販売。

# HOP



## わくわくワールドカフェ

人に寄り添い、人道支援や被災地支援などの活動を続ける人たちのブースに集まってのおしゃべりタイム。プレゼンターの出展団体の人たちの熱い想いにふれ、交流を深め、また一歩踏み出す勇気をもらいました。

どうぞ手に取って  
みてください  
ください

## ワールドマーケット

オープニングはブースを巡るの交流タイム。会場では国内外で支援活動をしている団体が支援商品や活動の様子を紹介。参加者は色とりどりのバッグやアクセサリ、クッキー、コーヒーなどを手に取りながらお買い物をしたり、粘土細工やバルーンアートなども楽しんで、笑顔とともに話はずみでした。

# MARCHE



## 12 チームやんだくない



東日本大震災の被災地にできることをお手伝いしようと 2013 年活動開始。年 1 回の被災地訪問と関西のイベントでの東北被災地生産品の販売が主な活動です。支援とともに被災地の現状も伝えています。今回は陸前高田市の作業所製造の乾燥ごぼうと乾燥りんごを販売。

## 13 ユニセフコーナー



大きなユニセフすごろくのシートを広げ、靴を脱いで自由にすごしてもらう場所を作りました。絵本を広げたり、折り紙のコマを回したり、作ってもらったバルーンで遊んだり。小さな子どももお母さんもゆったりくつろげ、笑顔があふれました。

## 14 寄せ書きコーナー



毎年 3 月 11 日に宮城県名取市<sup>りあげ</sup>で行われる「追悼のつどい」で飛ばされるハト風船には伝えたい想いを、メッセージボード「for every child (すべての子どものために)」には世界中の子どもたちへの想いを寄せ書きしてもらいました。



# BOOTH

## 出展団体紹介

### 1 兵庫県立伊川谷高等学校ボランティア部



地域の子どもたちに人形劇でSDGsを伝える活動を続けています。今年は放置竹林問題を取り上げました。会場では竹を使った工作をしました。カラフルな粘土で小さな人形や花を作り竹の台の上に乗せていき、子どもも大人も夢中になって楽しみました。

### 2 認定NPO法人 Future Code BYCS



Future Codeは世界の災害・貧困地域への医療支援や国際協力活動を行っています。大学生による学生部BYCSでは、活動の一つとして、アフリカ・ブルキナファソの女性支援を行っています。ブルキナファソのシアバターを使ったハンドクリーム「ハダニシア」を製造販売。

### 3 NPO法人ルワンダの教育を考える会



戦争で心身共に傷ついたルワンダの子どもたちに教育の機会を与え、民族や宗教、政治思想にとらわれることなく、その人らしく生きていくためのさまざまな教育支援に関する事業を行っています。ルワンダのコーヒー、紅茶、小物などを販売。



## みんなで踊ろう！ ネパールダンス

2016年に活動を開始し、日本で暮らすネパールの子どもたちの学習支援や母文化母語保持を支援しているインターナショナルセワソサエティ。その代表のラマ・ゴレ・プリタムさんと伝統民族舞踊を習っているセワスクールの皆さんが、きらびやかな民族衣装をまとい華麗なネパールダンスを披露。最後は参加者もみんな一緒になって軽快なリズムに合わせて踊りました。心がつながり、会場は笑顔の花でいっぱいになりました。

## WORKSHOP



さあ  
みんなで  
踊りましょう

話したいこと  
聞きたいこと  
いっぱい！



## PERFORMANCE

### 8 せいぼじゃぱん



アフリカ・マラウイの学校給食を支援。給食を通して将来の子どもたちの教育につなげていくことが大きな力を持つと信じて活動しています。マラウイ産フェアトレードコーヒーを仕入れ、売り上げを寄付につなげる事業を展開。マラウイのコーヒーとグッズを販売。

### 9 協同の苑もとやま園



多機能型障害福祉サービス事業所として「生活介護」「ショートステイ」そして「就労継続支援B型事業」を行っています。障がいをもった人が充実感をもって働き、仲間とともに成長しながら社会参加をしています。もとやま園で作ったクッキーを販売。

### 10 石光商事(株)



「世界の食の幸せに貢献します」がモットーの食品専門商社。障がいのある人たちが育てた原料を、環境にやさしいグリーン焙煎(コーヒーの抽出かすを燃料として使用)したコーヒーを飲んでもらい、小袋ドリップコーヒーのつかみ取りの売り上げはユニセフ募金に。

### 11 NGOネパール虹の家



2015年のネパール大地震の被災地支援活動として、サヌタリ村と4つの学校を支援。教育支援プロジェクト・サヌタリ村プロジェクト・スクールプロジェクト・女性自立支援プロジェクトに取り組んでいます。現地女性グループの作品を中心にネパールグッズを販売。



2

## きんこれん創立 50 周年記念 近畿地区子ども会大会に参加

**日時** 2024年1月21日(日)  
**会場** 神戸国際展示場(神戸市中央区)  
**主催** (公社)全国子ども会連合会、近畿地区子ども会連絡協議会、(一社)兵庫県子ども会連合会  
**後援** 文部科学省、子ども家庭庁、兵庫県、兵庫県教育委員会

子どもたちと地域の人とのつながりを広げる場である子ども会。社会状況が急激に変化する中で子ども会の未来を探るイベントに参加しました。いろいろな体験ができるブースやパフォーマンスなどが集まる「子ども会笑学校」に出展し、支援物資の展示の他、魚つりゲームやジグソーパズル、SDGs ルーレットなどで遊びながらユニセフのことを知ってもらいました。訪れた子どもたちは説明もしっかり聞き、何かを感じ取ってくれたようでした。



## Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2024年1月～4月

活 動 一 覧

Activities List

### 学習会一覧

月日	訪問先	対象	人数
1月15日	福崎町立高岡小学校	5・6年生	17
2月2日	千里丘コープ委員会	大人	7
2月14日	姫路北コープ委員会	大人	14
4月7日	ボーイスカウト姫路第16団・18団	小学生・大人	45

### 地域活動一覧

\* ブース出展

月日	イベント名
1月21日	きんこれん創立50周年記念 近畿地区子ども会大会 *
2月～3月	カレンダー募金
3月24日	学びあいフェスタ(三木市) *
3月25日	地球のステージ(神戸市中央区) *
4月28日	2024国際理解講座①「ミャンマーの子どもたちの願い～彼らの置かれた現状」(伊丹市)

当協会所有のウクライナ写真パネル(玉本英子さん撮影)の貸し出し  
 2023/12/21～2024/1/9 コープこうべ協同学苑、  
 1/23 コアキタマチ、3/7～24 イーグレひめじ

### 募金一覧

2023年11月～2024年2月

学校・団体名
(私)マリア幼稚園、(私)啓明学院、ガールスカウト兵庫県第25団、宝塚ボランティアセンター、神戸市立盲学校生徒会、甲陽園地区青少年愛護協議会会長安田恵里子、イエス団友愛幼児園、日本ボーイスカウト兵庫連盟、(社福)神戸聖隷福祉事業団障害者支援施設恵生園、生活協同組合コープこうべ、湊ハマ(株)、コープこうべユニオン

ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

3

## 学びあいフェスタに参加

**日時** 2024年3月24日(日)  
**場所** コープこうべ協同学苑(三木市)  
**主催** 学びあいフェスタ実行委員会  
**協力** CODE 海外災害援助市民センター、ひょうご森林林業協同組合連合会、兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県立香住高等学校、三木市国際交流協会、ONE BEANS、TEAM-3A、(株)コープエコファーム、兵庫県ユニセフ協会



世代や地域を超えて、学びあい、教えあい、人と人がつながっていくフェスタに参加しました。ブースでは、防災、食品ロス、兵庫の海、コープ商品などについての学習や展示、試食、実験・工作などが行われ、ステージでは、コープこうべの平和スタディツアーに参加し福島を訪れた中高生の発表などがありました。

ユニセフはアフリカ雑貨やコーヒーなどのフェアトレード商品や募金箱を置き協力を呼びかけました。

1

## カレンダー募金

**日時** 2024年2～3月  
**場所** コープこうべ生活文化センターなど



文具専門店伊東屋から寄贈されたさまざまなデザインのカレンダーを格安で提供するカレンダー募金を行いました。お預かりした92016円はすべてユニセフ募金にさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

# GLOBAL REPORT ガザ人道危機支援状況

ガザ北部のシファ病院から救出された赤ちゃんはガザ地区南部のヘラルエミラティ病院へ移送されました。(2023年11月19日)

ユニセフはガザ地区での緊急支援情報を発信しています。ここでは2月8日から3月5日までの緊急支援情報を中心に、兵庫県ユニセフ協会がまとめた現地の状況やユニセフの活動をお伝えします。



緊急支援の詳細や最新情報は日本ユニセフ協会のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.unicef.or.jp/kinkyu/gaza/>



©UNICEF/UN1473153/EI Baba



©UNICEF/UN1495369/ZAGOUT

◀ 南部のラファで、慈善団体による炊き出しを受け取ろうとする8歳の女の子。(ガザ地区、2023年12月19日撮影)



©UNICEF/UN1521727/EI Baba

◀ ラファで、爆撃により破壊された建物を眺める子どもたち。(ガザ地区、2024年1月31日撮影)

## すべてを奪う紛争から、 一人でも多くの子どもを守るために

全長 72.6kmの「壁」に閉ざされたパレスチナ・ガザ地区。2023年10月7日から激化した戦闘により、2万7,000人以上\*の尊い命が奪われ、その大半を女性と子どもたちが占めています。かろうじて生き延びている子どもたちの多くも、一生消えることのない心や身体の傷に苦しめられています。(\*4月15日現在は3万2,000人)

連日続く砲撃のため約190万人が避難民となって南部の狭い土地に追いやられ、散在する避難拠点の集団施設は過密状態で、水もトイレも食べ物も圧倒的に不足する劣悪な環境で避難生活を送っています。危機的な食料不足のため、6~23カ月齢の子どもと妊娠中・授乳中の女性の90%以上が、1日に2つ以下の食品群しか摂取できず急性栄養不良おちいに陥っています。また安全が確保できないため、女性が産前産後検診を受けることが困難な状況にあり、多くの赤ちゃんが命を落とす危険があります。母親が持つ不安が早産にもつながっていると国連機関は報告しています。

ユニセフはガザ地区に残る数少ない支援機関のひとつです。スタッフは子どもたちの安全や健康状態を確認しながら水や物資を提供し、医療用テントの設営や避難所の廃棄物処理まで、広範な支援を続けています。ガザ地区への検問所が断続的に開かれ人道物資が搬送されていますが、急増するニーズには足りません。

最低限必要な医薬品、飲料水、食料、身を寄せる場所を提供できるよう、ユニセフはパレスチナにおける人道支援計画に必要な資金を大幅に上方修正し、要請額を計2億6,330万米ドルに引き上げて国際社会へ要請しました。これには水と衛生分野のための6,220万米ドル、保健・栄養分野のための6,290万米ドル、現金給付のための7,440万米ドルなどが含まれます。3月5日現在の資金は、修正額より1億2,960万米ドル不足(49%不足)しています。

ガザ人道危機  
緊急募金への  
ご協力をお願いします

郵便局(ゆうちょ銀行)

振替口座: 00190-5-31000

口座名義: (公財)日本ユニセフ協会

\*通信欄に「ガザ」と明記ください。窓口での振り込みは送金手数料が免除されます。



この地図は国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

## ユニセフ募金 Donations For Unicef

### ■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

### ■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ガザ人道危機	ガザ K1-280 兵庫	00190-5-31000
ウクライナ	ウクライナ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000

\*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会  
\*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも  
どこでも  
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

# Wish<sup>vol.73</sup>

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2024年5月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081  
神戸市東灘区田中町5-3-18  
コープこうべ生活文化センター 2F

電話：078-435-1605 (平日10:00～16:00)

FAX：078-451-9830

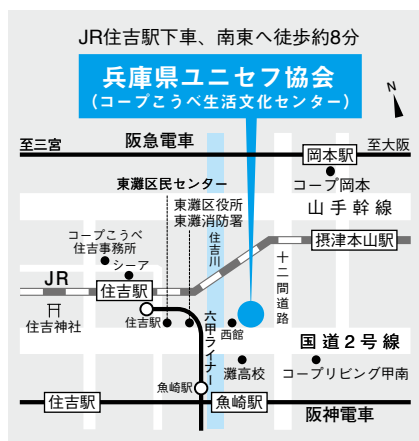
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://unicef-hyogo.jp/>

兵庫 ユニセフ

検索



## Join Us 主催イベント

### 2024 ユニ・ボラ塾 (全3回)

第1回「国連憲章を読もう」

5月25日(土) 14:00～16:00

第2回「国際人権法の基礎の基礎」

6月29日(土) 14:00～16:00

第3回「平和学の世界を覗いてみる」

7月27日(土) 14:00～16:00

会場 コープこうべ生活文化センター

講師 末吉洋文さん(帝塚山大学法学部教授。専門は国際法・平和学・国際人権法)



定員 各30人

ユニセフ活動において大切な「子どもの権利」「平和学」について学ぶ「ユニセフ・ボランティア塾」を開講します。「分断された世界において、私たち一人ひとりにできる事は何か」学びながら一緒に考えませんか。

### ユニセフ写真パネル展 「ウクライナ危機から1年 ～紛争下の子どもを支える ユニセフの緊急支援」

日時 6月24日(月)午後～7月9日(火)

会場 コープこうべ生活文化センター1階ロビー



©UNICEF/UNO697370/Kulakowsky

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。

各日程等は変更になることがあります。詳細はホームページをご覧ください。

参加費  
無料

### 2024 国際理解講座②③

※この講座は、公益信託兵庫婦人会館ユネスコ基金からの助成を受けて実施します。

②「子どもたちの未来の話をしよう～ルワンダを知る、ルワンダを食べる」

日時 6月11日(火)

第1部(ルワンダカフェ) 15:30～17:00

第2部(講演) 18:00～19:30

会場 さらら仁川北館 / コープ仁川

講師 永遠瑠マリルイズさん(ルワンダの教育を考える会理事長)



定員 各30人

後援 コープこうべ第1地区、第2地区

1994年に起きたルワンダ大虐殺から30年。今のルワンダは「アフリカの奇跡」と言われるほど復興しました。難民キャンプの暮らしも経験したマリルイズさんが、「平和」「教育」「いのち」の大切さを語ります。

③「世界遺産というアプローチ～心の中の平和のとりで」

日時 7月14日(日) 13:30～15:00

会場 イーグレひめじ3階あいめっせホール

講師 山本・リシャール登真さん(世界遺産アカデミー認定講師)



定員 260人

主催 兵庫県ユニセフ協会  
(公財)姫路市文化国際交流財団

後援 岡山ユニセフ協会  
コープこうべ第6地区、第7地区

世界遺産をテーマに国際理解における新たな視点をお伝えします。

## ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。オンラインでの開催も可能です。お気軽にお問い合わせください。



## ユニセフ ひょうご サポーター

賛助会員募集中

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支えてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。

